

〈論 文〉

全国駅伝ランキングの検討

——社会的認知資本に向けて——

久 保 和 之

1. はじめに

スポーツ基本法に基づき、スポーツ基本計画が策定され、第2期として2017年から2021年までの5か年計画で「スポーツ参画人口」の拡大を掲げている。スポーツ人口の増大とは、観戦者やサポーターを増やすことも含まれているが、重要なのはスポーツ実施者を増やすことであり、「スポーツへの社会化」理論の枠組みで説明される。「スポーツへの社会化」については、バンデュラの社会的学習理論に基づいて、スポーツの役割取得に至る過程に「個人的属性」「重要な他者」「社会化環境」の3要素が相互に関連して影響していると説明されている(Kenyon & McPherson, 1986)。これまで、スポーツへの社会化研究では主に、「重要な他者」についての分析や言及が多く、「社会化環境(Social situation)」について言及しているものとして、「都道府県別統計とランキングで見る県民性」サイトを運営している久保によれば、25歳以上スポーツ人口は、農業就業人口と負の相関があり、25歳以上ジョギング・マラソン人口は生産年齢人口と正の相関があるとされている(久保2017)。また、松畑は全国版調査統計の分析からスポーツ行動者率やスポーツ観覧の行動者率についてまとめており、観戦行動とスポーツ行動には関連があることを指摘している(松畑2015)。また近年、社会関係資本についての知見が出始めているが、社会資本についてまとめられた研究が少ないのが現状である。社会的認知資本^①とは、スポーツへの社会化過程の社会化要因に含まれ、「社会化環境」を構成する

スポーツに関する認知という新たな概念である。先行研究によれば、過去にアジア大会を実施した都市では、アジア大会に関する認知度が他地域よりも高いことが明らかになっている(久保2017)。そこでスポーツに関する社会的認知資本の概念を整理するために必要な情報を蓄積することが望まれる。

スポーツにおける資本整備にはハード面とソフト面があり、ハード面でいえば、スタジアムや体育館、プール、テニスコートなどの競技場やグラウンドなどの施設があげられる。また、それらに付随するアクセス道路や交通網なども関連してくる。ソフト面でいえば、法律や利用規則、大会運営ノウハウ、競技に関する情報などが考えられる。1946年から開催されている国民体育大会はソフト面の整備であり、「大会は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの推進と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにしようとするものである。」という目的のもと実施されており、国民体育大会を開催することにより全国の都道府県においてスポーツ施設など、ハード面の整備がされている。スポーツ庁の「体育・スポーツ施設現況調査(2015)」によれば、全国の体育・スポーツ施設設置個所は191,356か所とされているが、そのうち半数以上の116,029か所が学校体育・スポーツ施設となっている。スポーツ人口拡大を掲げたスポーツ基本計画を進めるうえでは、資本整備とその検証が重要であろう。国民体育大会の開催都道府県が天皇杯や皇后杯の順位において上位を占めている傾向は周知の事実であるが、スポーツ

人口の増加については検証されていない。一概にスポーツ施設といっても陸上競技場から屋内プール、弓道場、レスリング場、ゴルフ場、スキー場などのように場所や規模などがさまざまである。本来は、それぞれの資本整備について、インフラのフロー効果とストック効果（インフラ政策研究会 2015）を測定すべきであるが、産業連関表や利用者の情報などが複雑に絡み合うことによって検証するのが困難な状態である。そこで、本稿では、陸上競技場もしくは、道路を利用することによって活動できる駅伝に着目した。陸上競技の長距離走は一般道路というスポーツ施設ではないインフラを利用して活動できることにより、競技場の有無によって異なる競技環境の影響が少ないと考えられる。

本稿では都道府県別の駅伝ランキングを算出し、駅伝の盛んな地域と盛んでない地域を明らかにし、関連する要因について分析を試みることを目的とした。

2. 研究方法

都道府県の駅伝ランキングを算出するため、ウェブサイトに掲載されている大会情報から大会ごとの都道府県順位を調べた。対象とした大会は、「天皇杯全国都道府県対抗男子駅伝大会（以下、男子駅伝）」「皇后杯全国女子駅伝（以下、女子駅伝）」「全国高等学校駅伝競走大会（男子および女子）」である。各大会の順位を1位＝1点から47位＝47点と得点化し、大会ごとに都道府県の平均値を算出し、4大会を合計した数値を駅伝ランキングとした。高校駅伝の場合は、10回大会などの記念大会において都道府県代表以外に地区から選抜された代表チームが参加しており、55チームでの競争となっている場合があるが、その際はそのまま順位を点数化している。また、都道府県によっては、途中棄権している大会があり、その場合はその該当大会を省いての平均値とした。

県民性においては、気候や社会構造が関連しているとされている（祖父江 1971）ことから、人口統計などのデータを総務省がまとめている社会生活基本調査などの各省庁が公開している数値を参照にした。また、スポーツ観戦率や降雪量など

は、「都道府県別統計とランキングで見る県民性」に掲載されている2次データを利用した。駅伝ランキングとの関連については、ピアソンの相関係数（ γ ）を算出して分析を行った。

また、関連すると考えられる県民性については、武光（2001）の記述から考察をすすめた。その他、駅伝大会の情報や企業チームの情報については、Web上で開催地や所在地などを特定した。

3. 結果および考察

(1) 駅伝ランキング

全都道府県の駅伝ランキングをまとめたのが表1-1である。上位から兵庫・福岡・京都・愛知・熊本・埼玉・広島と続いており、東京と大阪を除く中核都市が上位を占めていることが明らかとなった。特に兵庫と福岡では、ランキングポイントが7点台になっており、これは平均してどの大会でも基本的に8位以内に入賞している値となっている。3位の京都に関しては、女子駅伝の値が2.6と極めて高いことにより上位になっている。その他、男子駅伝では愛知の8.5、長野の7、女子駅伝では千葉8.8、神奈川11、大阪10.3、三重11.4、高校男子の広島8.37、大分12.15、佐賀14.78、高校女子の宮城13.43、群馬15.68などが高ランクとなっている。

一方、下位の県を見ていくと、沖縄が44.0と突出して高い値を示していた。都道府県の最下位が47位であること考えると、ほとんどの大会で上位に入っていないことがわかる。続いて、石川・島根・新潟が続いており、日本海側の地域が低い結果となっている。ランキングに比して低ランクになっているのは男子駅伝の青森41.2、山梨37.9、女子駅伝の高知37.6、岩手36.4、高校男子の福井39.72、富山39.04、高校女子の秋田39.32、新潟39.29、滋賀38.64があげられる。ランキングの状況をマッピングしたのが図1である。基本的に北海道や東北地方と四国地方が低く、都市部および九州地方でランキングが高くなっている。

もちろん優勝争いを繰り広げるチームやトップレベルの選手の存在がランキングに影響していることから、各大会の優勝回数をまとめた。表1-2をみると男子駅伝で優勝しているのは10府県で

表 1-1 駅伝ランキング

順位	都道府県	男子	女子	高校男子	高校女子	ポイント
1位	兵庫	6.0	6.7	9.79	6.86	7.3
2位	福岡	8.0	9.1	7.33	7.25	7.9
3位	京都	16.5	2.6	22.06	6.32	11.9
4位	愛知	8.5	15.8	10.43	14.96	12.4
5位	熊本	11.0	9.4	17.54	13.54	12.9
6位	埼玉	10.7	12.4	15.83	15.07	13.5
7位	広島	10.3	18.6	8.37	17.61	13.7
8位	鹿児島	15.7	14.1	16.45	11.29	14.4
9位	千葉	18.7	8.8	20.18	10.25	14.5
10位	長崎	16.8	15.7	20.72	12.54	16.4
11位	宮崎	18.8	14.6	10.52	23.57	16.9
12位	神奈川	23.2	11	18.15	19.46	18.0
13位	山口	17.2	19.9	18.49	19.11	18.7
14位	岡山	26.2	17.9	15.67	15.57	18.8
15位	宮城	22.0	18.8	22.18	13.43	19.1
16位	大阪	22.3	10.3	25.9	21.14	19.9
17位	群馬	20.3	20.5	23.85	15.68	20.1
18位	東京	19.4	12.6	25.99	23.11	20.3
19位	福島	13.1	23.6	24.87	22.29	21.0
19位	大分	18.7	27.9	12.15	25.21	21.0
21位	長野	7.0	31.1	21.33	27.43	21.7
22位	栃木	16.2	23.8	21.96	27.86	22.5
22位	静岡	17.0	27.5	21.08	24.46	22.5
24位	佐賀	16.3	30	14.78	30.75	23.0
25位	岐阜	19.1	22.3	20.18	30.64	23.1
26位	三重	18.0	11.4	27.52	38.64	23.9
27位	茨城	28.3	18.5	33.96	24.18	26.2
28位	鳥取	32.4	31.1	26.46	26.56	29.1
29位	秋田	26.0	34.9	21.45	39.32	30.4
30位	北海道	32.3	29.8	31.62	29	30.7
31位	山形	35.6	29.2	32.58	27.32	31.2
32位	愛媛	35.3	24.7	36.01	29.75	31.4
33位	福井	28.1	25.8	39.72	33.18	31.7
34位	山梨	37.9	28.2	32.3	29.67	32.0
35位	奈良	33.2	32.9	34.13	28.75	32.2
36位	岩手	33.2	36.4	24.36	35.82	32.4
37位	高知	35.4	37.6	35.52	23.36	33.0
38位	和歌山	37.7	32.7	33.51	28.57	33.1
39位	滋賀	31.7	29.7	34.15	38.64	33.5
40位	富山	30.1	34.8	39.04	32.86	34.2
41位	香川	34.7	34.8	32.12	37	34.7
42位	青森	41.2	39.7	30.69	27.57	34.8
42位	徳島	31.7	35.8	33.84	37.89	34.8
44位	新潟	28.2	35.6	37.73	39.29	35.2
45位	鳥根	32.9	37.5	32.55	38.11	35.3
46位	石川	36.8	37.5	39.78	38.79	38.2
47位	沖縄	45.1	44.4	45.88	40.64	44.0

表 1-2 天皇杯（男子）優勝回数

府県名	回数
長野	7
兵庫	5
福岡	3
愛知	2
埼玉	2
広島	1
熊本	1
鹿児島	1
栃木	1
京都	1

表 1-3 皇后杯（女子）優勝回数

府県名	回数
京都	16
兵庫	4
千葉	3
大阪	3
神奈川	2
宮城	1
埼玉	1
愛知	1
岡山	1
福岡	1
長崎	1
熊本	1
鹿児島	1

あり、長野と福岡で12回優勝と2回に1回の割合となっていた。続いて福岡、愛知、埼玉と続いている。女子駅伝をまとめたのが表 1-3 であるが、こちらは京都府が16回優勝と極めて偏っている結果であった。男子駅伝と同様に多くの都道府県が優勝しているのではなく、13府県のみに限られている。高校駅伝の優勝回数については男子が表 1-4 である。こちらは、兵庫の16回が最多で福岡12回、広島11回、宮城と宮崎が7回と続いている。高校女子駅伝は表 1-5 であるが、13府県の13校のみが優勝している状況である。当然ながら駅伝ランキングの高い府県が多い結果である。特に兵庫県と福岡県は、どのカテゴリーにおいても優勝経験があり、とくに高校駅伝の男子において優勝回数が多いことからランキングが上位になっていることがうかがえる。

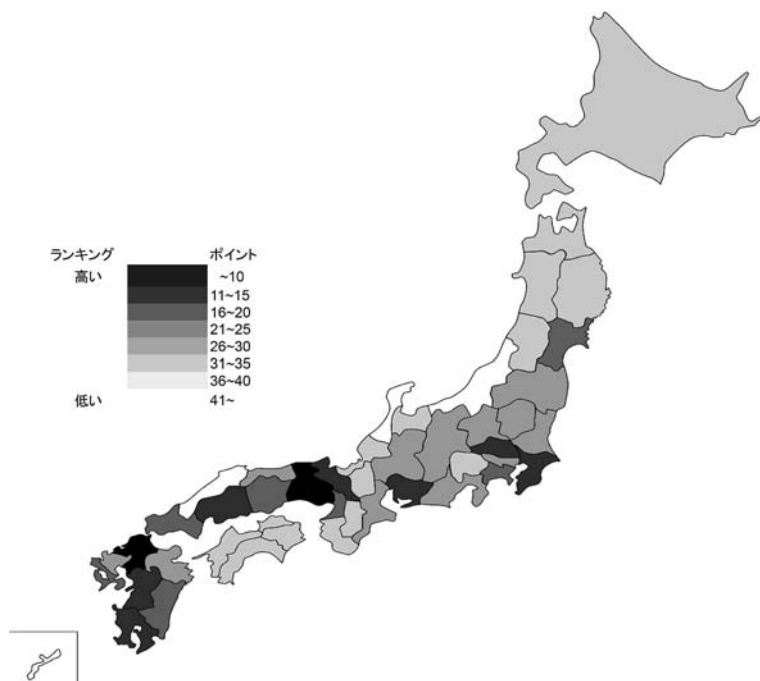


図1 駅伝ランキング

表 1-4 高校駅伝男子優勝県

県名	優勝回数	高校名	内訳
兵庫	16	西脇工	9
		報徳学園	6
		飾磨工	1
福岡	12	大牟田	5
		福岡大大濠	3
		常磐	2
		福岡農	2
広島	11	世羅	9
		西条農	1
		盈進	1
		仙台育英	7
宮城	7	小林	7
宮崎	7	中京大中京	3
愛知	4	豊川	1
長野	2	佐久長聖	2
岐阜	2	中京院中京	2
大分	1	中津商	1
岡山	1	倉敷	1
鹿児島	1	鹿児島実	1
神奈川	1	相原	1
熊本	1	玉名	1
埼玉	1	埼玉栄	1
千葉	1	市船橋	1

表 1-5 高校駅伝女子優勝府県

県名	優勝回数	高校名
愛知	4	豊川
埼玉	3	埼玉栄
宮城	3	仙台育英
福岡	3	筑紫女学園
京都	3	立命館宇治
岡山	2	興譲館
大阪	2	薫英女学院
千葉	2	市立船橋
兵庫	2	須磨学園
長崎	2	諫早
群馬	1	健大高崎
広島	1	世羅
福島	1	田村

(2) 人口関連要因

駅伝ランキングと人口の相関を調べたところ、相関係数 (γ) 0.47 で有意な相関が認められた。また、各都道府県の人口と陸上競技連盟（以下、陸連）登録者数をみると、相関係数 (γ) 0.98 で非常に強い関連があった。陸上競技連盟の登録者数と駅伝ランキングにおいても相関係数 (γ) 0.499 と有意な関係がみられた。駅伝ランキング

と人口についてまとめたのが表 2-1 である。相関関係は認められたものの、東京都や神奈川県、大阪府といった人口の多い都府県が必ずしもランキング上位になっておらず、人口の最小の鳥取県が駅伝ランキング 28 位であり、福井県や佐賀県で

は人口に比べてランキングが上位になっている。また、新潟や北海道、沖縄などでは、ある程度人口がいるにもかかわらず駅伝ランキングが下位になっている。

表 2-1 駅伝ランキングと人口

		人口	ランキング (順位)
1	東京	13,515,271	20.3 (18)
2	神奈川	9,126,214	18 (12)
3	大阪	8,839,469	19.9 (16)
4	愛知	7,483,128	12.4 (4)
5	埼玉	7,266,534	13.5 (6)
6	千葉	6,222,666	14.5 (9)
7	兵庫	5,534,800	7.3 (1)
8	北海道	5,381,733	30.7 (30)
9	福岡	5,101,556	7.9 (2)
10	静岡	3,700,305	22.5 (22)
11	茨城	2,916,976	26.2 (27)
12	広島	2,843,990	13.7 (7)
13	京都	2,610,353	11.9 (3)
14	宮城	2,333,899	19.1 (15)
15	新潟	2,304,264	35.2 (44)
16	長野	2,098,804	21.7 (21)
17	岐阜	2,031,903	23.1 (25)
18	栃木	1,974,255	22.5 (23)
19	群馬	1,973,115	20.1 (17)
20	岡山	1,921,525	18.8 (14)
21	福島	1,914,039	21 (19)
22	三重	1,815,865	23.9 (26)
23	熊本	1,786,170	12.9 (5)
24	鹿児島	1,648,177	14.4 (8)
25	沖縄	1,433,566	44 (47)
26	滋賀	1,412,916	33.5 (39)
27	山口	1,404,729	18.7 (13)
28	愛媛	1,385,262	31.4 (32)
29	長崎	1,377,187	16.4 (10)
30	奈良	1,364,316	32.2 (35)
31	青森	1,308,265	34.8 (42)
32	岩手	1,279,594	32.4 (36)
33	大分	1,166,338	21 (20)
34	石川	1,154,008	38.2 (46)
35	山形	1,123,891	31.2 (31)
36	宮崎	1,104,069	16.9 (11)
37	富山	1,066,328	34.2 (40)
38	秋田	1,023,119	30.4 (29)
39	香川	976,263	34.7 (41)
40	和歌山	963,579	33.1 (38)
41	山梨	834,930	32 (34)
42	佐賀	832,832	23 (24)
43	福井	786,740	31.7 (33)
44	徳島	755,733	34.8 (43)
45	高知	728,276	33 (37)
46	鳥根	694,352	35.3 (45)
47	鳥取	573,441	29.1 (28)

表 2-2 駅伝ランキングと陸上競技連盟登録者数

		陸連登録人数 (2017)	ランキング (順位)
1	東京	37335	20.3 (18)
2	大阪	29727	19.9 (16)
3	神奈川	28056	18 (12)
4	千葉	22624	14.5 (9)
5	愛知	21689	12.4 (4)
6	兵庫	20734	7.3 (1)
7	埼玉	18515	13.5 (6)
8	福岡	16457	7.9 (2)
9	静岡	14996	22.5 (22)
10	北海道	13713	30.7 (30)
11	新潟	10882	35.2 (44)
12	京都	10461	11.9 (3)
13	広島	9452	13.7 (7)
14	宮城	8652	19.1 (15)
15	三重	7576	23.9 (26)
16	長野	7270	21.7 (21)
17	岩手	6722	32.4 (36)
18	群馬	6639	20.1 (17)
19	岐阜	6491	23.1 (25)
20	岡山	6459	18.8 (14)
21	福島	6370	21 (19)
22	茨城	6321	26.2 (27)
23	滋賀	6308	33.5 (39)
24	青森	6083	34.8 (42)
25	熊本	6042	12.9 (5)
26	長崎	5624	16.4 (10)
27	山口	5565	18.7 (13)
28	山形	5555	31.2 (31)
29	鹿児島	5370	14.4 (8)
30	秋田	5210	30.4 (29)
31	愛媛	4764	31.4 (32)
32	大分	4484	21 (20)
33	鳥根	4392	35.3 (45)
34	栃木	4272	22.5 (23)
35	石川	4214	38.2 (46)
36	奈良	4191	32.2 (35)
37	宮崎	4161	16.9 (11)
38	富山	3952	34.2 (40)
39	佐賀	3677	23 (24)
40	和歌山	3652	33.1 (38)
41	山梨	3402	32 (34)
42	香川	3397	34.7 (41)
43	福井	3025	31.7 (33)
44	高知	2793	33 (37)
45	徳島	2742	34.8 (43)
46	鳥取	2212	29.1 (28)
47	沖縄	2137	44 (47)

また、表 2-2 の陸上競技連盟登録者数においても駅伝ランキングと関連はあるものの競技人口が多いからといってランキングが上がっているとは限らないことが示唆された。表 2-3 は人口に占める陸上競技連盟の登録者数である。こちらは駅伝

表 2-3 駅伝ランキングと陸上競技連盟登録者率

		陸連割合	ランキング (順位)
1	島根	0.6325	35.3 (45)
2	岩手	0.5253	32.4 (36)
3	秋田	0.5092	30.4 (29)
4	山形	0.4943	31.2 (31)
5	新潟	0.4723	35.2 (44)
6	青森	0.465	34.8 (42)
7	滋賀	0.4465	33.5 (39)
8	佐賀	0.4415	23 (24)
9	三重	0.4172	23.9 (26)
10	長崎	0.4084	16.4 (10)
11	山梨	0.4075	32 (34)
12	静岡	0.4053	22.5 (22)
13	京都	0.4008	11.9 (3)
14	山口	0.3962	18.7 (13)
15	鳥取	0.3857	29.1 (28)
16	大分	0.3845	21 (20)
17	福井	0.3845	31.7 (33)
18	高知	0.3835	33 (37)
19	和歌山	0.379	33.1 (38)
20	宮崎	0.3769	16.9 (11)
21	兵庫	0.3746	7.3 (1)
22	宮城	0.3707	19.1 (15)
23	富山	0.3706	34.2 (40)
24	石川	0.3652	38.2 (46)
25	千葉	0.3636	14.5 (9)
26	徳島	0.3628	34.8 (43)
27	香川	0.348	34.7 (41)
28	長野	0.3464	21.7 (21)
29	愛媛	0.3439	31.4 (32)
30	熊本	0.3383	12.9 (5)
31	群馬	0.3365	20.1 (17)
32	大阪	0.3363	19.9 (16)
33	岡山	0.3361	18.8 (14)
34	福島	0.3328	21 (19)
35	広島	0.3323	13.7 (7)
36	鹿児島	0.3258	14.4 (8)
37	福岡	0.3226	7.9 (2)
38	岐阜	0.3195	23.1 (25)
39	神奈川	0.3074	18 (12)
40	奈良	0.3072	32.2 (35)
41	愛知	0.2898	12.4 (4)
42	東京	0.2762	20.3 (18)
43	埼玉	0.2548	13.5 (6)
44	北海道	0.2548	30.7 (30)
45	茨城	0.2167	26.2 (27)
46	栃木	0.2164	22.5 (23)
47	沖縄	0.1491	44 (47)

表 2-4 中学校および高校の陸上競技部員数

	中学女子		中学男子		高校女子		高校男子	
	順位	総人数	順位	総人数	順位	総人数	順位	総人数
北海道	38	3092	33	4,251	35	1,378	30	2,511
青森	3	1633	3	2,125	19	511	7	1,037
岩手	44	677	44	820	4	688	6	998
宮城	28	1724	24	2,278	15	928	15	1,514
秋田	2	1208	4	1,344	3	502	2	818
山形	7	1,060	19	1,191	2	627	1	1,012
福島	1	2,776	1	3,753	22	724	24	1,209
茨城	46	1,348	46	1,503	29	916	38	1,458
栃木	6	1,946	9	2,626	37	568	32	1,069
群馬	19	1,742	20	2,155	39	551	31	1,044
埼玉	16	6,162	16	8,142	36	1,859	34	3,414
千葉	17	5,259	14	7,203	14	2,319	18	3,759
東京	43	6,449	41	8,787	46	2,112	46	4,068
神奈川	30	6,294	23	8,635	45	1,750	37	3,851
山梨	31	609	34	744	9	392	16	654
新潟	4	2,481	2	3,711	25	761	8	1,678
長野	32	1,560	38	1,786	30	667	41	1,050
富山	34	734	22	1,117	24	392	12	767
石川	10	1,112	17	1,322	7	535	28	717
福井	24	636	36	698	26	295	23	520
静岡	11	3,540	18	4,278	16	1,500	17	1,382
愛知	40	4,828	37	6,520	12	3,149	9	2,826
三重	18	1,625	10	2,446	17	719	21	4,813
岐阜	13	1,995	13	2,593	27	706	3	1,487
滋賀	21	1,315	8	2,153	23	540	11	1,094
京都	12	2,385	7	3,504	33	824	29	1,523
大阪	26	6,687	21	9,135	44	2,079	45	3,536
兵庫	9	5,292	15	6,529	18	2,127	20	3,425
奈良	36	913	25	1,394	31	416	27	803
和歌山	8	902	5	1,368	42	260	39	504
鳥取	15	526	6	815	5	264	10	416
島根	5	672	12	824	6	307	13	516
岡山	39	1,234	28	1,807	43	500	36	1,013
広島	23	2,248	11	3,582	21	1,023	22	1,701
山口	14	1,210	35	1,144	11	569	4	1,026
香川	42	598	40	822	10	436	25	589
徳島	37	466	26	692	41	198	33	364
愛媛	35	878	39	1,078	13	537	19	847
高知	22	536	31	590	38	202	42	349
福岡	25	4,022	32	4,529	32	1,508	44	2,223
佐賀	20	756	29	815	8	401	5	751
長崎	29	1,050	27	1,332	1	799	14	968
熊本	41	1,096	43	1,312	34	527	35	901
大分	27	843	30	1,021	20	451	26	704
宮崎	33	815	42	823	28	394	43	546
鹿児島	45	871	45	1,036	40	475	40	829
沖縄	47	167	47	132	47	219	47	397

注：順位は 100 人当たりの人数が多い順

出典：全国高等学校体育連盟 参考：<https://todo-ran.com/>

ランキングと相関関係はみられなかった。人口や駅伝ランキングとは、関連がみられなかったものの、概して東北地方で割合が高い傾向がみられた。中学校や高等学校における陸上競技部員数をまとめたのが表 2-4 であるが、同様に東北地方で割合が高くなっている。基本的に北日本や日本海側の県において陸上競技部員の比率が高いようであるが、佐賀 0.4415 (8 位) や三重 0.4172 (9 位)、長崎 0.4084 (10 位) と四国や九州でも上位になっている。

したがって、人口が多い地域ほど駅伝ランキングが高くなる傾向は認められるものの、必ずしも人口が多ければ、駅伝ランキングが高くなるとは限らないことが示唆される。

(3) スポーツ関連要因

各都道府県の 25 歳以上スポーツ人口と 100 人あたりの人数を示したのが表 3-1 である。相関係数 $(\gamma) = 0.453$ で 1% 水準の有意な関係性が認められた。実施率では東京、埼玉、神奈川、千葉と首都圏が上位になり、続いて愛知、滋賀、京都、兵庫となっている。基本的に都市部の割合が高いが、滋賀 (6 位)、栃木 (9 位)、奈良 (10 位)、茨城 (11 位) と地方の県も上位につけている。下位は青森 (47 位)、秋田 (46 位)、岩手 (45 位)、山形 (44 位) と東北地方が並んでいる。高知 (43 位)、新潟 (42 位)、島根 (40 位) と駅伝ランキングが低い県が割合も低い結果になっている。駅伝ランキングの高い九州の県は鹿児島 (21 位)、沖縄 (25 位)、大分 (28 位)、熊本 (29 位)、福岡 (30 位)、宮崎 (36 位)、長崎 (38 位)、佐賀 (41 位) であり、スポーツ人口率は高くないことが明らかになった。ただ、駅伝ランキングの低い四国も愛媛 (23 位)、香川 (27 位)、徳島 (32 位)、高知 (43 位) とどちらかといえば低い結果であった。

スポーツの中でもジョギングおよびマラソン人口と割合をまとめたのが表 3-2 である。相関係数 $(\gamma) = 0.384$ で 1% 水準の有意な関係性が認められた。スポーツ人口と同様に東京 (1 位)、千葉 (2 位)、神奈川 (4 位)、愛知 (5 位) と都市部が上位にあるが、沖縄 (3 位) や富山 (7 位) とスポ

ーツ人口率とは異なる傾向がある。基本的に四国や東北などの地方が下位になっていた。しかし、広島 (43 位) や福岡 (27 位)、京都 (23 位)、兵庫 (21 位) と駅伝ランキングが高い府県であっ

表 3-1 スポーツ人口率と駅伝ランキング

		25 歳以上 スポーツ人口	人口割合	ランキング	順位
1	東京	7,783,000	72.66	20.3	18 位
2	埼玉	3,906,000	69.19	13.5	6 位
3	神奈川	4,837,000	68.33	18	12 位
4	千葉	3,314,000	68.04	14.5	9 位
5	愛知	3,821,000	66.94	12.4	4 位
6	滋賀	710,000	66.79	33.5	39 位
7	京都	1,327,000	66.22	11.9	3 位
8	兵庫	2,810,000	65.55	7.3	1 位
9	栃木	1,000,000	64.94	22.5	22 位
10	奈良	683,000	64.74	32.2	35 位
11	茨城	1,464,000	64.52	26.2	27 位
12	静岡	1,855,000	64.01	22.5	22 位
13	群馬	981,000	63.95	20.1	17 位
14	長野	1,051,000	63.89	21.7	21 位
15	石川	563,000	63.33	38.2	46 位
16	山梨	408,000	62.96	32	34 位
17	岐阜	984,000	62.92	23.1	25 位
18	大阪	4,298,000	62.75	19.9	16 位
19	宮城	1,132,000	62.61	19.1	15 位
20	富山	526,000	62.32	34.2	40 位
21	鹿児島	797,000	62.31	14.4	8 位
22	三重	876,000	62.17	23.9	26 位
23	愛媛	676,000	62.02	31.4	32 位
24	広島	1,361,000	61.98	13.7	7 位
25	沖縄	642,000	61.91	44	47 位
26	岡山	911,000	61.72	18.8	14 位
27	香川	470,000	61.2	34.7	41 位
28	大分	558,000	61.12	21	19 位
29	熊本	840,000	61.05	12.9	5 位
30	福岡	2,356,000	60.16	7.9	2 位
31	山口	662,000	60.02	18.7	13 位
32	徳島	359,000	59.93	34.8	42 位
33	福井	362,000	59.74	31.7	33 位
34	北海道	2,537,000	59.26	30.7	30 位
35	鳥取	265,000	59.15	29.1	28 位
36	宮崎	505,000	59.06	16.9	11 位
37	和歌山	444,000	58.73	33.1	38 位
38	長崎	625,000	58.25	16.4	10 位
39	福島	877,000	58.08	21	19 位
40	島根	316,000	57.66	35.3	45 位
41	佐賀	366,000	57.64	23	24 位
42	新潟	1,033,000	56.95	35.2	44 位
43	高知	328,000	56.65	33	37 位
44	山形	492,000	55.47	31.2	31 位
45	岩手	562,000	55.42	32.4	36 位
46	秋田	456,000	54.81	30.4	29 位
47	青森	519,000	50	34.8	42 位

でもジョギングやマラソン人口の割合が低いことが明らかとなった。

スポーツ観戦率についてまとめたのが表 3-3 である。相関係数 $(\gamma) = 0.414$ で 1% 水準の有意な

表 3-2 ジョギングマラソン人口率と駅伝ランキング

		25 歳以上 ジョギング・ マラソン人口	人口割合	ランキング	順位
1	東京	1,387,000	12.95	20.3	18 位
2	千葉	537,000	11.02	14.5	9 位
3	沖縄	110,000	10.61	44	47 位
4	神奈川	740,000	10.45	18	12 位
5	愛知	583,000	10.21	12.4	4 位
6	埼玉	572,000	10.13	13.5	6 位
7	富山	81,000	9.6	34.2	40 位
8	福井	56,000	9.24	31.7	33 位
9	滋賀	98,000	9.22	33.5	39 位
10	茨城	206,000	9.08	26.2	27 位
11	大阪	629,000	9.08	19.9	16 位
12	栃木	138,000	8.96	22.5	22 位
13	佐賀	55,000	8.66	23	24 位
14	石川	76,000	8.55	38.2	46 位
15	大分	78,000	8.54	21	19 位
16	熊本	117,000	8.5	12.9	5 位
17	群馬	129,000	8.41	20.1	17 位
18	静岡	239,000	8.25	22.5	22 位
19	山口	91,000	8.25	18.7	13 位
20	北海道	346,000	8.08	30.7	30 位
21	兵庫	346,000	8.07	7.3	1 位
22	鹿児島	103,000	8.05	14.4	8 位
23	京都	161,000	8.03	11.9	3 位
24	奈良	84,000	7.96	32.2	35 位
25	三重	112,000	7.95	23.9	26 位
26	宮崎	68,000	7.95	16.9	11 位
27	福岡	310,000	7.92	7.9	2 位
28	長崎	83,000	7.74	16.4	10 位
29	山梨	50,000	7.72	32	34 位
30	新潟	139,000	7.66	35.2	44 位
31	宮城	134,000	7.41	19.1	15 位
32	徳島	44,000	7.35	34.8	42 位
33	岡山	108,000	7.32	18.8	14 位
34	鳥取	32,000	7.14	29.1	28 位
35	長野	116,000	7.05	21.7	21 位
36	岐阜	109,000	6.97	23.1	25 位
37	愛媛	76,000	6.97	31.4	32 位
38	高知	40,000	6.91	33	37 位
39	山形	60,000	6.76	31.2	31 位
40	鳥根	37,000	6.75	35.3	45 位
41	福島	101,000	6.69	21	19 位
42	和歌山	50,000	6.61	33.1	38 位
43	広島	145,000	6.6	13.7	7 位
44	青森	68,000	6.55	34.8	42 位
45	秋田	53,000	6.37	30.4	29 位
46	岩手	63,000	6.21	32.4	36 位
47	香川	47,000	6.12	34.7	41 位

関係性が認められた。天皇杯全国男子駅伝や皇后杯全国女子駅伝をはじめ、高校駅伝など主要な駅伝大会はテレビ中継されている。駅伝以外のスポーツも含めてのスポーツ観戦率であるが、スポー

表 3-3 スポーツ観戦率と駅伝ランキング

		スポーツ観戦 人口	スポーツ 観戦率	ランキング	順位
1	広島	666,000	30.33	13.7	7 位
2	宮城	437,000	24.17	19.1	15 位
3	福岡	898,000	22.93	7.9	2 位
4	神奈川	1,615,000	22.81	18	12 位
5	北海道	940,000	21.96	30.7	30 位
6	東京	2,307,000	21.54	20.3	18 位
7	愛知	1,195,000	20.94	12.4	4 位
8	千葉	1,013,000	20.8	14.5	9 位
9	兵庫	880,000	20.53	7.3	1 位
10	佐賀	128,000	20.16	23	24 位
11	埼玉	1,102,000	19.52	13.5	6 位
12	秋田	156,000	18.75	30.4	29 位
13	大阪	1,273,000	18.59	19.9	16 位
14	岩手	185,000	18.24	32.4	36 位
15	石川	160,000	18	38.2	46 位
16	京都	357,000	17.81	11.9	3 位
17	山梨	114,000	17.59	32	34 位
18	奈良	185,000	17.54	32.2	35 位
19	沖縄	180,000	17.36	44	47 位
20	鳥根	95,000	17.34	35.3	45 位
21	長野	285,000	17.33	21.7	21 位
22	山口	187,000	16.95	18.7	13 位
23	富山	143,000	16.94	34.2	40 位
24	岡山	250,000	16.94	18.8	14 位
25	福島	255,000	16.89	21	19 位
26	茨城	379,000	16.7	26.2	27 位
27	滋賀	177,000	16.65	33.5	39 位
28	大分	152,000	16.65	21	19 位
29	愛媛	180,000	16.51	31.4	32 位
30	群馬	253,000	16.49	20.1	17 位
31	山形	146,000	16.46	31.2	31 位
32	三重	225,000	15.97	23.9	26 位
33	徳島	95,000	15.86	34.8	42 位
34	長崎	170,000	15.84	16.4	10 位
35	栃木	241,000	15.65	22.5	22 位
36	静岡	442,000	15.25	22.5	22 位
37	宮崎	130,000	15.2	16.9	11 位
38	鹿児島	191,000	14.93	14.4	8 位
39	香川	114,000	14.84	34.7	41 位
40	和歌山	112,000	14.81	33.1	38 位
41	岐阜	230,000	14.71	23.1	25 位
42	新潟	266,000	14.66	35.2	44 位
43	福井	87,000	14.36	31.7	33 位
44	熊本	195,000	14.17	12.9	5 位
45	青森	146,000	14.07	34.8	42 位
46	鳥取	61,000	13.62	29.1	28 位
47	高知	71,000	12.26	33	37 位

ッ人口やジョギング・マラソン人口と同様に都市部で高い値を示している。ただし、プロスポーツチームの有無により、観戦行動が異なると考えられ、駅伝ランキングと関連するのは、他の要因によるものが大きいと考えられる。

(4) 環境的要因

スポーツ実施率は、総人口増減率と正の相関があり、農業就業人口と負の相関があることから収入が高くて人口が増加し、農業就業者が少ない都市部でスポーツ人口が多いとされている（久保2017）。ここでは環境的な条件に焦点を当てて分析を進める。まず平均気温との関係をまとめたのが表4-1である。相関係数（ γ ）-0.188で有意な関係性は認められなかった。駅伝はどちらかというとウインタースポーツの部類であり、暑い環境ではあまりおこなわれていない。そこで、気温が低い地方のほうが活動するのに適していることから駅伝ランキングが高いと考えられるが、実際には、駅伝ランキングには関係がなく、むしろ平均気温の高い西日本や南日本の地方で駅伝ランキングが高い傾向が見受けられた。

また、平野部と山間部では活動する環境が異なると考えられることから可住地面積⁽²⁾についてまとめたのが表4-2である。相関係数（ γ ）-0.288で5%水準の有意な関係性が認められた。可住地面積が多いところでは人口も多くなり、それにもなって駅伝人口も多いことが予想される。駅伝ランキング最下位の沖縄が11位につけ、兵庫が23位、京都が36位となっているところを見ると可住地面積率と駅伝ランキングは関連が低いことがうかがえる。可住地面積率と密接な関係があると思われる陸上競技場の数⁽³⁾についてまとめたのが表4-3である。ある程度まとまった土地がないと陸上競技場はできないことから、面積の大きいところが上位にある傾向がみうけられる。山間部が多く平野部の少ない四国や近畿地方では陸上競技場数が少なく、それに伴い駅伝ランキングも低くなっていることが考えられる。ただし、山間部が多くて平野部が少ない長野県ではランキングが21位で男子駅伝では優勝回数7回（1位）でポイントが7.0（2位）と上位になっている。このこ

表 4-1 平均気温と駅伝ランキング

	都道府県	平均気温 (℃)	駅伝 ランキング	順位
1	北海道	8.9	30.7	30 位
2	岩手	10.2	32.4	36 位
3	青森	10.4	34.8	42 位
4	秋田	11.7	30.4	29 位
5	山形	11.7	31.2	31 位
6	長野	11.9	21.7	21 位
7	宮城	12.4	19.1	15 位
8	福島	13	21	19 位
9	茨城	13.6	26.2	27 位
10	栃木	13.8	22.5	22 位
11	新潟	13.9	35.2	44 位
12	富山	14.1	34.2	40 位
13	福井	14.5	31.7	33 位
14	群馬	14.6	20.1	17 位
15	石川	14.6	38.2	46 位
16	山梨	14.7	32	34 位
17	滋賀	14.7	33.5	39 位
18	奈良	14.9	32.2	35 位
19	鳥取	14.9	29.1	28 位
20	島根	14.9	35.3	45 位
21	埼玉	15	13.5	6 位
22	千葉	15.4	14.5	9 位
23	神奈川	15.8	18	12 位
24	愛知	15.8	12.4	4 位
25	岐阜	15.8	23.1	25 位
26	三重	15.9	23.9	26 位
27	京都	15.9	11.9	3 位
28	岡山	16.2	18.8	14 位
29	東京	16.3	20.3	18 位
30	広島	16.3	13.7	7 位
31	香川	16.3	34.7	41 位
32	大分	16.4	21	19 位
33	静岡	16.5	22.5	22 位
34	愛媛	16.5	31.4	32 位
35	佐賀	16.5	23	24 位
36	徳島	16.6	34.8	42 位
37	兵庫	16.7	7.3	1 位
38	和歌山	16.7	33.1	38 位
39	山口	16.7	18.7	13 位
40	大阪	16.9	19.9	16 位
41	熊本	16.9	12.9	5 位
42	高知	17	33	37 位
43	福岡	17	7.9	2 位
44	長崎	17.2	16.4	10 位
45	宮崎	17.4	16.9	11 位
46	鹿児島	18.6	14.4	8 位
47	沖縄	23.1	44	47 位

とは、平地よりむしろアップダウンがある環境が長距離走の能力を伸ばしていることが考えられ、都市部より地方のほうが有利であるはずであるが、実際には都市部のほうでランキングが高い傾

表 4-2 可住地面積と駅伝ランキング

	都道府県	可住地面積率 (%)	駅伝 ランキング	順位
1	大阪	69.84	19.9	16 位
2	千葉	68.91	14.5	9 位
3	埼玉	68.06	13.5	6 位
4	茨城	65.19	26.2	27 位
5	東京	64.74	20.3	18 位
6	神奈川	60.87	18	12 位
7	愛知	57.76	12.4	4 位
8	福岡	55.38	7.9	2 位
9	佐賀	54.72	23	24 位
10	香川	53.58	34.7	41 位
11	沖縄	51.25	44	47 位
12	栃木	46.55	22.5	22 位
13	富山	43.38	34.2	40 位
14	長崎	40.57	16.4	10 位
15	熊本	37.74	12.9	5 位
16	鹿児島	36.06	14.4	8 位
17	新潟	36.04	35.2	44 位
18	群馬	35.83	20.1	17 位
19	三重	35.66	23.9	26 位
20	静岡	35.35	22.5	22 位
21	青森	33.48	34.8	42 位
22	石川	33.25	38.2	46 位
23	兵庫	33.13	7.3	1 位
24	滋賀	32.54	33.5	39 位
25	岡山	31.19	18.8	14 位
26	山形	30.94	31.2	31 位
27	福島	30.59	21	19 位
28	愛媛	29.48	31.4	32 位
29	北海道	28.53	30.7	30 位
30	大分	28.37	21	19 位
31	山口	27.92	18.7	13 位
32	秋田	27.53	30.4	29 位
33	広島	27.25	13.7	7 位
34	福井	25.71	31.7	33 位
35	鳥取	25.68	29.1	28 位
36	京都	25.45	11.9	3 位
37	徳島	24.36	34.8	42 位
38	岩手	24.31	32.4	36 位
39	宮崎	23.91	16.9	11 位
40	長野	23.78	21.7	21 位
41	和歌山	23.6	33.1	38 位
42	奈良	23.18	32.2	35 位
43	山梨	21.37	32	34 位
44	岐阜	20.82	23.1	25 位
45	鳥根	19.36	35.3	45 位
46	高知	16.37	33	37 位
47	宮城	13.32	19.1	15 位

表 4-3 陸上競技場数と駅伝ランキング

	都道府県	競技場数	駅伝 ランキング	順位
1	北海道	240	30.7	30 位
2	埼玉	118	13.5	6 位
3	青森	102	34.8	42 位
4	千葉	97	14.5	9 位
5	東京	94	20.3	18 位
6	茨城	77	26.2	27 位
7	秋田	73	30.4	29 位
8	愛知	71	12.4	4 位
9	栃木	68	22.5	22 位
10	宮城	64	19.1	15 位
11	神奈川	64	18	12 位
12	兵庫	58	7.3	1 位
13	福岡	55	7.9	2 位
14	鹿児島	54	14.4	8 位
15	福島	53	21	19 位
16	群馬	49	20.1	17 位
17	熊本	48	12.9	5 位
18	岩手	46	32.4	36 位
19	新潟	43	35.2	44 位
20	長野	39	21.7	21 位
21	大阪	39	19.9	16 位
22	沖縄	38	44	47 位
23	広島	37	13.7	7 位
24	静岡	36	22.5	22 位
25	山形	35	31.2	31 位
26	宮崎	34	16.9	11 位
27	大分	32	21	19 位
28	岐阜	29	23.1	25 位
29	岡山	29	18.8	14 位
30	三重	26	23.9	26 位
31	京都	25	11.9	3 位
32	鳥根	24	35.3	45 位
33	石川	23	38.2	46 位
34	山口	23	18.7	13 位
35	長崎	22	16.4	10 位
36	富山	21	34.2	40 位
37	山梨	19	32	34 位
38	福井	17	31.7	33 位
39	愛媛	16	31.4	32 位
40	滋賀	15	33.5	39 位
41	香川	15	34.7	41 位
42	佐賀	15	23	24 位
43	奈良	14	32.2	35 位
44	鳥取	14	29.1	28 位
45	和歌山	12	33.1	38 位
46	高知	12	33	37 位
47	徳島	8	34.8	42 位

向がある。

さらに練習する際に影響されと考えられる積雪状況についてまとめたのが表 4-4 である。相関係数 (γ) 0.436 で 1% 水準の有意な関係性が認め

られた。平均気温とも密接な関係があると考えられる。冬季に積雪が多い場合は、屋外での活動が制限されることから、少なからず駅伝ランキングに影響を及ぼしているようである。しかし、北海

表 4-4 積雪量と駅伝ランキング

	都道府県	降雪量 (cm)	駅伝 ランキング	順位
1	青森	669	34.8	42 位
2	北海道	597	30.7	30 位
3	山形	426	31.2	31 位
4	富山	383	34.2	40 位
5	秋田	377	30.4	29 位
6	福井	286	31.7	33 位
7	石川	281	38.2	46 位
8	岩手	272	32.4	36 位
9	長野	263	21.7	21 位
10	新潟	217	35.2	44 位
11	鳥取	214	29.1	28 位
12	福島	189	21	19 位
13	滋賀	104	33.5	39 位
14	島根	89	35.3	45 位
15	宮城	71	19.1	15 位
16	岐阜	47	23.1	25 位
17	山梨	29	32	34 位
18	栃木	28	22.5	22 位
19	群馬	24	20.1	17 位
20	埼玉	22	13.5	6 位
21	京都	19	11.9	3 位
22	茨城	16	26.2	27 位
23	愛知	16	12.4	4 位
24	神奈川	13	18	12 位
25	広島	12	13.7	7 位
26	東京	11	20.3	18 位
27	奈良	8	32.2	35 位
28	三重	7	23.9	26 位
29	佐賀	6	23	24 位
30	山口	4	18.7	13 位
31	徳島	4	34.8	42 位
32	福岡	4	7.9	2 位
33	長崎	4	16.4	10 位
34	鹿児島	4	14.4	8 位
35	大阪	3	19.9	16 位
36	岡山	3	18.8	14 位
37	香川	3	34.7	41 位
38	兵庫	2	7.3	1 位
39	和歌山	2	33.1	38 位
40	愛媛	2	31.4	32 位
41	熊本	2	12.9	5 位
42	大分	2	21	19 位
43	千葉	1	14.5	9 位
44	高知	1	33	37 位
45	静岡	0	22.5	22 位
46	宮崎	0	16.9	11 位
47	沖縄	0	44	47 位

える。

(5) 県民性

武光（2001）はそれぞれの県民性を一言で表しており、それと駅伝ランキングをまとめたのが表 5-1 である。陸上競技の長距離走や駅伝は、短距離走と比べて長時間の活動であることから、粘り強さや根気、忍耐、辛抱強さなどが求められる。一言で表した県民性において、8つの県において駅伝に有利と考えられる性格がみられた。しかし、駅伝ランキングにおいては、宮城の（15位）が最高であり、鳥取（28位）、福井（33位）、山梨（34位）、岩手（36位）、新潟（44位）、石川（46位）とどちらかというランキングが低くなっている。ランキングトップの兵庫県では「融通性があり控えめで人当たりがよい」となっており、控えめ目な性格でありながら競技では力を控えていない結果になっている。この辺りは、融通性を利かせて控えるべきところを見極める能力があるのかもしれない。また、ランキング2位の福岡に関しては、「目立ちたがり」という性格により、目立ちたいがために上位を狙う意志が強いと解釈もできる。京都（3位）や愛知（4位）は、保守的であり、勉強熱心や状況に敏感なことから競技成績が高いことも考えられる。熊本（5位）は「剛健」であることにより強靱な意思を持つことも考えられ、埼玉（6位）は、「堅実」にトレーニングをしているともとらえられる。広島（7位）は、「積極的」であるがゆえに積極的に競技力を伸ばしているのかもしれない。しかし、「飽きっぽい」性格であれば、長距離には向いていないと思われる。いずれにせよ、県民性と駅伝ランキングは、関連がほとんどないという結果であった。

また、武光（2001）は各都道府県民の詳細な気質を挙げており、駅伝向きと思われる特徴がみられた県についてまとめたのが表 5-2 である。13の県において、「粘り」「忍耐」「努力」「辛抱」「黙々と」といった気質が挙げられているが、埼玉を除いてほとんどが駅伝ランキングで下位の県になっている。特に東北や日本海沿岸の県に集中しており、そのほかは海に面していない県となっ

道や東北地方、日本海側が雪の影響によりランキングが低くなるのは、説明がつくが、ほとんど雪の降らない四国地方においてランキングが低くなっていることは他の要因が関連していると考えら

表5 一言で表した県民性と駅伝ランキング

都道府県	県民性	ポイント	ランキング
北海道	陽気で人なつこく進歩的	30.7	30 位
青森	正直な一徹者だが冗談好きで親切	34.8	42 位
岩手	冷静沈着で粘り強い	32.4	36 位
宮城	誠実で根気があり信心深い	19.1	15 位
秋田	勇敢で忠実、冒険心に富む	30.4	29 位
山形	義理人情に厚い堅実家	31.2	31 位
福島	頑固で探求心が強い	21	19 位
茨城	我が強く正義感に富む	26.2	27 位
栃木	勤勉で誠実、正義感が強い	22.5	22 位
群馬	短気だが正直で人情味があつい	20.1	17 位
埼玉	堅実で穏やか	13.5	6 位
千葉	明るく楽天的で熱しやすい	14.5	9 位
東京	社交的で好奇心と出世欲がつよい	20.3	18 位
神奈川	現実主義者で新しいもの好き	18	12 位
山梨	忍耐づよく実利主義	32	34 位
新潟	慎重で粘り強い働き者	35.2	44 位
長野	頑固で努力家で義理堅い	21.7	21 位
富山	勤勉で向学心がつよい	34.2	40 位
石川	忍耐づよく控え目	38.2	46 位
福井	才覚があり粘り強い	31.7	33 位
静岡	開放的で控え目	22.5	22 位
愛知	保守的だが情況に敏感	12.4	4 位
三重	温和で柔軟な考えをもつ	23.9	26 位
岐阜	誠実で粘り強く保守的	23.1	25 位
滋賀	勤勉で知恵がはたらく	33.5	39 位
京都	保守的だが勉強熱心で情が細やか	11.9	3 位
大阪	陽気で実利、個性を重んじる	19.9	16 位
兵庫	融通性があり控え目で人当たりが良い	7.3	1 位
奈良	自立心が強いが用心深い	32.2	35 位
和歌山	自己主張がつよく楽天的	33.1	38 位
鳥取	素朴で辛抱づよい	29.1	28 位
島根	保守的だが人情はこまやか	35.3	45 位
岡山	陽気で努力家だが計算高い	18.8	14 位
広島	世話好きで積極的だが飽きっぽい	13.7	7 位
山口	自己顕示欲がつよい努力家	18.7	13 位
香川	明るく協調性に富むが計算高い	34.7	41 位
徳島	堅実で勤勉で陽気	34.8	42 位
愛媛	穏やかでまじめで素朴	31.4	32 位
高知	頑固で一本気で反骨精神がつよい	33	37 位
福岡	開放的で目立ちたがり	7.9	2 位
佐賀	律義で控え目	23	24 位
長崎	陽気でのんびり屋	16.4	10 位
熊本	剛健で正義感がつよい	12.9	5 位
大分	淡泊で柔軟性いゆたか	21	19 位
宮崎	穏やかで楽天家で思いやりがある	16.9	11 位
鹿児島	剛健で誠実で開放的	14.4	8 位
沖縄	陽気でおおらか	44	47 位

武光（2001）の表に駅伝ランキングを追加

表 5-2 特徴的な県民気質

県名	ランク	県民気質（出典ページ）
青森	42 位	粘り強い働き者冷静沈着で、忍耐力に富む（p 56）
岩手	36 位	辛抱づよく辛抱強い（p 58）
福島	19 位	ねばり強さ（p 67）
栃木	22 位	協調性を重んじる芯のつよい努力家（p 74）
群馬	17 位	芯のつよい努力家（p 74）
埼玉	6 位	努力する堅実な気質（p 83）
山梨	34 位	忍耐強さや野性味（p 135,p 136）
新潟	44 位	忍耐づよく働きの者（p 105） 忍耐強く自律的慎重で粘り強い（p 107）
富山	40 位	骨身を惜しまず黙々とよく働く（p 109） 勤勉さや内心の激しさ（p 110）
石川	46 位	忍耐強い温和で控え目（p 110）
福井	33 位	粘り強くよく働く（p 114）
滋賀	39 位	正直、堅実、ねばり強い、淡泊で軽快（p 172）
鳥取	28 位	おとなしくて内向的耐えるつよさをもつたくましさと開放性（p 118）
広島	7 位	行動派陽気で世話好きで積極性があり飽きっぽく大ざっぱ忍耐力がない（p 191）
香川	41 位	誠実で働き者だが物腰が優美なやさ男強烈な個性がなく、要領がよく粘りづよさや忍耐力にかける（p 199）

ている。これは武光によれば自然条件の厳しい地域においてつくられた気質であると指摘されている。言い換えると自然条件が厳しい地域においては、駅伝ランキングが低い傾向が見受けられた。

さらに、武光（2001）は、地域性については次のように述べている。

「北陸地方から山陰地方にかけて「日本海文化圏気質」とでもよぶべき、共通のものが強く見られる。ねばり強く、まじめ、勤勉で人情にあつい。」（103 p）

「東海道の気質として共通するものに、陽気で柔軟性に富み、多少消極的といった点があげられる」（p 123）

「甲信地方、岐阜県には、自助努力の精神がつよく、頑固で保守的といったきしつがみられる。これは、内陸部の寒暖差の大きい厳しい自然や、盆地の閉鎖性からうみ出されたものであろう」（p 124）

「京都府と兵庫県の北部固有のものは少なく、そこでは北陸、山陰地方に共通の勤勉、まじめ、ねばり強い、人情味があついといった気質が目立つ」（p 176）

「岡山県下から広島県下の海岸部に、「吉備気質」とよぶべき陽気でおおらかで人情味のあつい生き方が生まれたと考えられる。それは、その地域の生活の豊かさからくるものであろう。」（p 189）

「四国北部、中部といえる徳島、香川、愛媛三県の気質には、以前あげた「吉備気質」と共通する要素が多い。温暖で天災が少なく、農作物も海産物も豊かなため、人びとが陽気でおおらかで人情味あつい性格になっていくのである。」（p 198）

「九州北部、中部の人びとに開放的で楽天的で陽気な共通の資質がみられる。さらにそれが人情があつく気の荒い面にもつながる。もっとも九州全体でみれば、がいて北の人間は内向的でおとなしく、南の人間は外交的でがさつであるといわれる。」（p 204）

これによると北陸地方や山陰地方、甲信地方などには、「ねばり強い」「まじめ」「自助努力の精神がつよい」という特徴がみられ、長距離走に向いている性格と思われるが、県民性と同様に駅伝ランキングには、反映していない結果である。また、「吉備気質」を持つといわれる岡山と広島は、駅伝ランキングが上位に入っているが、同じ気質を持つ徳島・香川・愛媛は、ランキングが低い結果になっている。県民の気質と駅伝特性が関連しているのであれば、同様の「吉備気質」を持つ徳島や香川の駅伝ランキングも高くなるはずであるが、実際は異なることから他の要因が関係していることが推察される。自然条件に恵まれた四国において、駅伝ランキングが低いのは、地理的条件以外の要因があることが考えられる。

（6）駅伝大会との関連

認知資本につながる情報の提供に大きな役割を担っているのがマスメディアであり、駅伝大会に関する情報を流すメディア情報の一つが駅伝大会

表 6-1 主要駅伝大会および開催地

カテゴリー	大会名	開催地（注 4）
都道府県対抗	天皇杯全国都道府県対抗男子駅伝大会	広島
実業団	皇后杯全国都道府県対抗女子駅伝大会	京都
	全日本実業団対抗駅伝大会	群馬・三重
	全日本実業団対抗女子駅伝大会	宮城・三重・岐阜
大学生	全日本大学駅伝対校選手権大会	愛知・三重
	出雲全日本大学選抜駅伝競走	島根
	全日本大学女子駅伝対校選手権大会	宮城
	全日本大学女子選抜駅伝競走大会	静岡
中学・高校生	全国高等学校駅伝競走大会〈男子〉	京都
	全国高等学校駅伝競走大会〈女子〉	京都
	全国中学校駅伝競走大会〈男子〉	山口・滋賀・熊本・千葉
	全国中学校駅伝競走大会〈女子〉	山口・滋賀・熊本・千葉
北海道・東北	十和田八幡平駅伝競走全国大会	秋田
	東日本女子駅伝	福島
東日本	東日本実業団対抗駅伝競走大会	埼玉
	東京箱根間往復大学駅伝競走	東京・神奈川
中部・北陸	中部・北陸実業団対抗駅伝競走大会	愛知
	東海学生駅伝対校選手権大会	愛知
	富士登山駅伝	静岡
関西	関西実業団対抗駅伝競走大会	和歌山
	関西学生対校駅伝競走大会	京都
中国・四国	中国実業団対抗駅伝競走大会	広島
	中国四国学生駅伝	山口
	中国山口駅伝	山口
九州	九州実業団対抗駅伝競走大会	福岡
	九州学生駅伝対校選手権大会	福岡
	（選抜女子駅伝北九州大会）	

表 6-2 過去に行われていた大会

カテゴリー	大会名	開催年	開催地
国際駅伝	男女混合 国際千葉駅伝	1988-2014	千葉
	横浜国際女子駅伝	1983-2009	神奈川
地方	環日本海駅伝	1992-2004	新潟
	東日本縦断駅伝	1951-2002	青森・岩手・宮城・福島・ 栃木・茨城・埼玉・東京
	東日本実業団対抗女子駅伝	1981-2014	埼玉
	実業団女子駅伝中日本大会	2009-2008	岐阜
	名岐駅伝	1930-2013	岐阜・愛知
	淡路島女子駅伝競走大会	1990-2008	兵庫
	中国駅伝（天皇杯へ発展）	1931-1995	広島
	実業団女子駅伝西日本大会	2009-2014	福岡
	九州一周駅伝	1952-2013	長崎・佐賀・熊本・鹿児島 ・宮崎・大分・福岡
	朝日駅伝競走	1950-2011	福岡
	九州実業団対抗女子駅伝競走大会	1990-2008	福岡
	→全日本実業団対抗女子駅伝大会予選会	2009-2014	福岡

表7 実業団チームの所在地

	(ランキング)	チーム数	カテゴリー	大会順位	チーム名
東京	18	8	男	7	コニカミノルタ
			男	15	日清食品グループ
			男	18	カネボウ
			男	33	警視庁
			女	3	JP 日本郵政グループ
			女	4	第一生命グループ
			女	7	資生堂
			女	13	三井住友海上
愛知	4	7	男	3	トヨタ自動車
			男	10	愛三工業
			男	13	愛知製鋼
			男	25	トヨタ紡織
			男	29	中央発條
			男	32	トーエネック
			女	8	豊田自動織機
			男	4	トヨタ自動車九州
福岡	2	7	男	9	安川電機
			男	12	九電工
			男	20	西鉄
			男	24	黒崎播磨
			女	9	九電工
			女	17	TOTO
			男	2	Honda
			男	19	八千代工業
埼玉	6	5	男	27	ヤクルト
			男	31	サンベルクス
			女	15	しまむら
			男	5	富士通
			男	21	日立物流
			女	10	積水化学
			女	21	スターツ
			女	22	ユニバーサルエンターテインメント
広島	7	3	男	14	中国電力
			男	28	マツダ
			男	35	中電工
神奈川	12	3	男	6	DeNA
			男	23	プレス工業
			女	1	パナソニック
兵庫	1	3	男	11	住友電工
			女	19	シスメックス
			女	20	ノーリツ
大阪	16	2	男	17	NTT 西日本
			女	2	ダイハツ
群馬	17	2	男	22	SUBARU
			女	6	ヤマダ電機
三重	26	2	男	16	NTN
			女	12	デンソー
京都	3	1	女	16	ワコール
熊本	5	1	女	14	肥後銀行
鹿児島	8	1	女	11	京セラ
長崎	10	1	男	8	MHPS
宮崎	11	1	男	1	旭化成
岡山	14	1	女	5	天満屋
佐賀	24	1	男	36	ひらまつ病院
北海道	30	1	女	18	ホクレン
滋賀	39	1	男	34	SG ホールディングスグループ
富山	40	1	男	26	YKK
徳島	42	1	男	30	大塚製薬
新潟	44	1	男	37	セキノ興産

の存在である。そこで、駅伝大会の開催状況⁽⁴⁾についてまとめた。2017年度に開催された主要な大会をまとめたのが表6-1である。都道府県対抗駅伝が開催されている広島と京都は、駅伝ランキングが7位・3位と上位になっており、実業団駅伝は群馬（17位）と宮城（15位）であり、下位ではなく中位となっている。大学生駅伝については、静岡（23位）と島根（45位）で開催されているが、ランキングが上位ではないのは、他の駅伝とは異なり、地元チームや地元出身選手の活躍が見えにくいこともあり現地のマスメディアに情報が流れにくいのではないかと考えられる。いずれにせよ、愛知や京都、広島、福岡など、駅伝ランキングが高い府県で開催されている大会が多いことから、開催地の府県はマスメディアの報道により駅伝に対する認知度が高いことが予想され、インフラのストック効果があるものと考えられる。

また、過去に開催されていた大きな駅伝大会についてまとめたのが表6-2である。こちらも主要な大会と同様に駅伝ランキングの高いところで開催されていることがわかる。ただ、「環日本海駅伝」はランキングの低い新潟（44位）で開催されていたが、1992年から13回の実施であり、諸事情により終了していることから、新潟においては駅伝の情報があまり拡散できなかったとかがえる。同様に「東日本縦断駅伝」もランキングの低い東北地方で開催されていたが、2002年を最後に大会が終了している。「東日本縦断駅伝」と同時期に始まった「九州一周駅伝」が2013年まで継続していたことを考えれば、やはり駅伝に対する認知や態度が低かったことが予想される。四国地方では、高校駅伝の予選会などが行われているが、主要な大会がないことから、認知資本が少ない状態になり、駅伝ランキングが低いのではないと思われる。もちろん市民駅伝や小学生駅伝など、地方で行われている大会もあるが、それらはどの都道府県にもあることから駅伝ランキングには影響がないと考えられる。

(7) 企業チームとの関連

都道府県対抗駅伝大会には、中学生・高校生・

大学生・社会人が出場しており、基本的に学校や実業団、クラブが所在する都道府県の代表として出場している⁽⁵⁾。したがって、強豪大学や実業団チームが存在する都道府県は、そうでないところより選手層が厚くなる。よって駅伝ランキングにも影響していると考えられる。そこで実業団チームの活動拠点をまとめたのが表7である。今回、対象とした大会は男子第62回大会（2018）、女子が第37回大会（2017）であり、予選を通過したチームのみを紹介している。大会によっては予選を通過するチームが異なり、毎年、同じチームが出場しているわけではない。ちなみに男子の前回大会で出場チーム数が異なるのは、兵庫-1、広島+1、佐賀-1、山形+1、女子の38回大会では福岡-1、鹿児島+、兵庫-1、広島+1の誤差となっている。

競技力の高い実業団チームの所在地は、駅伝ランキングが高いところになっていた。東京は、駅伝ランキングは18位とそんなに高くないものの、競技に打ち込む企業の姿勢や企業数や人口が多いことから選手が集まっていると推察される。チーム数が多いのは愛知（ランキング4位）福岡（同2位）、埼玉（同6位）、千葉（同9位）、広島（同7位）、神奈川（同12位）、兵庫（同1位）と続いている。2チームや1チームの府県では、知名度の高い企業チームで競技成績が良いパターンと知名度のない企業チームで駅伝ランキングの低い県となっている。ランキングやチーム知名度が低い県のチーム成績は、下位になっており、やはり、駅伝ランキングが上位の府県では、企業チームが活躍していることが明らかになった。

4. ま と め

全国の都道府県対抗駅伝大会の結果をもとに駅伝ランキングを算出し、ポイントが高い府県と低い県が明らかになった。概して政令指定都市の位置する県と福岡から京都にまたがる県及び九州地方において駅伝ランキングが高く、北海道および東北と日本海沿岸、四国地方において駅伝ランキングが低いことが明らかになった。このことはおおむね、古来の日本社会で栄えていた地域と合致しており、自然条件が豊かなことから人口が多

く、生産活動以外のスポーツ活動を行う余裕があるためではないかと考えられる。また、地方から都市部への大学進学や就職移動により、若年層が都市部に集中しており、駅伝ランキングを高める競技力の高い人材が集中している現実もある。

しかし、人口的な要因や自然条件と駅伝ランキングは関係性が認められるものの必ずしも一致しておらず、社会構造的な要因の存在が考えられた。また、県民性や県民の気質との関連もみられず、地域性との考察はさらなる分析が必要である。

駅伝ランキングの上位の県には駅伝大会や実業団チームの存在があり、ランキングが低い県では見当たらないことが明らかになった。特に駅伝大会が存在することにより、地域の住民は駅伝に対する認知度が上がると考えられ、それにより競技力向上につながるスポーツ人口が高くなっていると推察される。

大会の存在が駅伝ランキングを高めるのではないかという仮説が導き出されたが、今回の分析では因果関係が不明であり、大会があることによって本当に駅伝の認知がされているのか、今後の検証が必要であろう。

今後は、駅伝ランキングの低い地方において、駅伝大会や啓発イベント、強化事業などを実施し、駅伝大会の認知度を高めることによって競技力が高くなることが予想される。また、実業団駅伝で優勝するほどの競技力を持つ旭化成チーム（宮崎県）のように地方においても活躍できる実業団チームがあることによってランキングが上がるので、都市部以外でも実業団チームの活躍を期待したい。ただし、現状の競技人口が集中する仕組みの中では実業団チームや強豪大学チームが存在する都市部が有利であることから、活動する府県の代表として出場するのではなく、出身地からの出場に限ることによって、各都道府県チームの競技力が平衡し、順位が変動する面白さが担保されるのではないだろうか。

付記

本稿は、日本生涯スポーツ学会第20回大会（名城大学）で発表した内容に修正や追加を加えたもので

ある。

注

(1) 社会的認知資本

認知資本主義論は、レギュレーション理論（フランス）において、フォーディズムの次の枠組みとして生まれた考え方で、それまでの肉体的労働や物質的労働と雇用の関係を捉えるのではなく、非物質的労働という新たな労働形態との関係性をみる知識経済の考え方である。認知している知識の価値を資本として認める資本主義である。

(2) 可住地面積率とは

各都道府県の総面積から林野面積と主要湖沼面積を引いた数値であり、平地の面積を示した値にはなっていない。本来なら平地の面積率を参照するべきであるが、全国統計として見出すことができなかったために今回は可住地面積率を利用した。

(3) 陸上競技場数について

スポーツ庁の平成27年度「体育・スポーツ施設現況調査」のデータから抽出している。都道府県により陸上競技場の認定基準が異なることが考えられ、例えば鹿児島では総数100のうち、学校体育・スポーツ施設として62が計上されているが、長野では総数26で学校体育・スポーツ施設としての数値は計上されていない。長野県の学校体育施設の陸上競技場を入れるともう少し数が多いと予想されるので、あくまでも参考としてのデータである。

(4) 開催地について

大会によっては、開催地が変更している場合があることから複数の都道府県を掲載している。例えば、全日本実業団対抗駅伝大会は、第1回から30回までが三重県で開催され、32回大会から現在の群馬県になっている。同様に全国高等学校駅伝競走大会（男子）は第1回大会から16回大会までは大阪府で開催され、17回大会から京都府になっている。したがって、大会を開催していたことによるストック効果が表れている可能性も考えられる。

(5) 都道府県対抗駅伝大会には「ふるさと出場制度」があり、必ずしも当該都道府県に居住していなくても居住地以外の代表として出場することができる。大学生であれば居住地の他、「出身高校の所在地」か「大学所在地」での出場が認められ、社会人であれば、「活動拠点所在地」「本籍地」「勤務地」が選択できる。

参考文献

- インフラ政策研究会「インフラ・ストック効果－新時代の社会資本整備の指針－」中央公論社 2015
- 一般社団法人日本実業団陸上競技連合『競技結果 全日本実業団対抗駅伝競走大会』（参照 2018 年 9 月 11 日 http://www.jita-trackfield.jp/jita/wp-content/uploads/2018/01/2018NewYear_Result.pdf）
- 一般社団法人日本実業団陸上競技連合『競技結果 全日本実業団対抗女子駅伝競走大会』（参照 2018 年 9 月 12 日 http://www.jita-trackfield.jp/jita/wp-content/uploads/2017/12/2017_QueensEKIDEN_Result_teisei20180719.pdf）
- 公益財団法人全国高等学校体育連盟 統計資料『平成 30 年度加盟登録状況』（参照 2018 年 8 月 28 日 <http://www.zen-koutairen.com/pdf/reg-30nen.pdf>）
- 公益財団法人日本中学校体育連盟 統計資料『平成 30 年度加盟校調査集計』（参照 2018 年 8 月 28 日 <http://njpa.sakura.ne.jp/kamei.html>）
- 皇后盃全国都道府県対抗女子駅伝競走大会事務局『これまでの記録 大会結果一覧 都道府県別・各大会成績』（参照 2018 年 8 月 27 日 <http://www.womens-ekiden.jp/result/prefectures.html>）
- 久保哲朗（2017）：『統計から読み解く』都道府県ランキング，新建新聞社。
- 久保和之（2017）：『スポーツへの社会化とメガスポーツイベント－社会化状況要因に着目して－』龍谷大学社会学部紀要，第 50 号，pp 41-49。
- McPherson, B. D. (1986) Socialization Theory and research; toward a "New Wave". Human Kinetics. pp 111-134.
- 松畑尚子（2015）：『全国版調査統計を読み解く－12 平成 23（2011）年社会生活基本調査（総務省統計局）：スポーツ人口の地域差』，体育の科学，第 65 巻 第 10 号，pp 739-746。
- 祖父江孝男（1971）：『県民性』，中公新書。
- 総務省統計局，『平成 23 年社会生活基本調査』（参照 2018 年 11 月 16 日 <http://www.stat.go.jp/data/shakai/2011/>）
- 総務省統計局，『平成 28 年社会生活基本調査』（参照 2018 年 11 月 20 日 <https://www.stat.go.jp/data/shakai/2016/index.html>）
- スポーツ庁，『体育・スポーツ施設現況調査』（参照 2018 年 11 月 19 日 http://www.mext.go.jp/sports/b_menu/toukei/chousa04/shisetsu/1368149.htm）
- 武光 誠（2001）：『県民性の日本地図』，文春新書。
- 都道府県別統計とランキングで見る県民性 [とどらん]（参照 2018 年 11 月 16 日 <https://todo-ran.com/>）
- 天皇盃 全国都道府県対抗男子駅伝競走大会事務局『過去大会のデータ 大会別データ』（参照 2018 年 8 月 25 日 <http://data.hiroshima-ekiden.com/archive/>）
- 山本泰三（2016）：『認知資本主義 21 世紀のポリティカル・エコノミー』，ナカニシヤ出版
- 全国高校駅伝『過去の記録 大会全記録』（参照 2018 年 8 月 19 日 <http://www.koukouekiden.jp/record/archive/>）